

1. 評価結果概要表

作成日 2007年10月17日

【評価実施概要】

事業所番号	1272800267
法人名	医療法人明星会
事業所名	千葉県鴨川市広場1665番地
所在地	グループホームまきの家 (電話) 04-7098-3211

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成19年10月17日	評価確定日	12月12日

【情報提供票より】(19年9月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 16人, 非常勤3人, 常勤換算17.5人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,000 円	その他の経費(月額)	水光熱19,000+食45,000+実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(180,000円)	有りの場合 償却の有無	有(期間:2年)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	550 円
	夕食	650 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500円			

(4) 利用者の概要(9月25日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	7 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.7 歳	最低	75 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東条病院・東条メンタルホスピタル・鴨川市立国保病院(歯科)
---------	-------------------------------

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

安房鴨川駅から車で約5分、母体である医療法人明星会・東条病院と並んで位置している。平成17年の開設から3年目を迎え、入居者と職員の信頼関係が一層深まり、地域にも馴染み始めてきた。車椅子で自由に移動できる広々とした室内、樹齢幾年もの木々が生い茂る庭など、ゆったりとした空間がホームの最大の特徴。入居者が落ち着いて生活できる雰囲気を感じられる。隣に病院があるため医療面で心強く、ホームでのターミナルケアも可能である。職員は月1回、自主的に介護を学んでおり、よりよいサービスを提供していく心意気を感じられる。入居者も皆、生き生きと楽しそうに過ごしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	ホーム独自の理念を作成し、職員の目に付くところに掲示して、共有と実践に励んでいる。居間や居室は、季節感のある装飾が施され、家族に呼びかけて馴染みの品を持ってきてもらうよう努めており、家庭的な雰囲気が感じられる。緊急時対応は、職員が勉強会等を通じ、実践的な技術を身につけている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各ユニットの計画作成担当者が、職員の意見を取り入れながら、記入した。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議はすでに何回か開催している。メンバーは、老人クラブ地区分会長、鴨川市地域包括支援センター長、家族代表、ホーム職員で構成されている。主としてホームの生活ぶりや事故・ヒヤリハット報告などについて話し合っている。ボランティアの呼びかけも行っている。今後は、小学校や駐在所などにも参加を呼びかけていく予定である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	玄関に意見箱を設置している。職員は、家族の面会時や行事の際にも、積極的に声かけしている。家族会の結成も計画している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	小学校の運動会を見学に行ったり、散歩の際は近隣住民に挨拶している。しかし、地域との防災協定などはなく、老人会や公民館のサークル活動にも、時間が合わないなどの理由であまり参加していない。今後、地域との連携のあり方を検討するなど、より一層地域に密着したホーム運営が期待される。

2. 評価結果 ( 詳細 )

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	親切、思いやりの精神をもって、常に入居者の立場になり、それぞれの能力を十分生かせるように生活を支援するという理念を作成し、実践に励んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に目につく場所に理念を掲示し、日々の介護に取り入れるよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校の運動会見学やボランティアの受入れは行っている。しかし、ホームと地域がどのように連携するか、まだ模索の途中である。		地域密着型サービス実現のため、さまざまな地域交流を行い、つながりを深めることが必要と思われる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を前向きに受入れ、できることから改善を進めている。今回も、職員が意見を出し合い、それを各ユニットの計画作成担当者が自己評価票にまとめている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	老人クラブ会長、鴨川市地域包括支援センター職員、入居者の家族代表らが集まり、会議を開催している。内容は、ホームの行事や事故・ヒヤリハットなどの報告が中心であり、地域と密接に連携を結ぶには至っていない。		小学校や駐在所にも参加を呼びかける方針なので実現が期待される。会議が単なる定期報告会に留まらず、地域との連携を深める話し合いの場となることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	鴨川市地域包括支援センター主催の研修会に積極的に参加し、情報交換している。市の介護保険課には、さまざまな連絡をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の生活の様子を知らせる手紙や写真を毎月送付している。ホーム便りも定期的に発行し、家族に送っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口は、重要事項説明書に明示し、玄関に意見箱を設置している。職員は面会や行事の際、家族に声かけしている。来年度を目途に家族会を立ち上げる予定もある。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内で職員が異動する際は、入居者に混乱が起きないように事前に知らせるとともに、送別会や歓迎会を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回、ホーム内で勉強会を実施している。法人主催の研修会や外部の研修会にも、交代で参加するよう努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	最近、千葉県認知症高齢者グループホーム連絡会に入会した。同法人の老人性認知症センターにおいて、地域のグループホームの集いを始めたところである。		同業者との交流が始まったばかりなので、今後、多くの情報交換を図りつつ、連携を深めることが大切と思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居申込時に、ホームで一定の時間、過ごしてもらっている。入居後も、家族と相談しながら、早く馴染めるよう支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>食器の配膳や片付け、掃除、畑仕事など、それぞれの入居者ができることを、職員とともに行っている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式アセスメントシートを部分的に利用し、ホームのモニタリングシートと併せて、入居者一人ひとりを理解するよう努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>担当者が個々の入居者の生活状況を把握し、モニタリング会議で意見を出し合い、介護計画に反映している。その内容はすべての職員に伝達している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は、月1回のモニタリング会議で評価し、必要に応じて修正している。計画は、入居者の状況に応じて柔軟に見直すことができるよう配慮している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体の病院が隣接しているため、医療面でのバックアップが心強い。ホームでは入居者の希望に応じ、釣堀、墓参り、市議会傍聴等、個別に外出支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の東条病院が夜間の往診を行うなど、連携を図っている。他医療機関への通院も柔軟に対応している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期をどう過ごしたいか、大まかなところをまず入居契約時に聞き、実際のターミナルの際は、入居者本人・家族の意向を再度確認しながら支援を行う。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護に関しては明確な方針がある。また職員は理念に基づく思いやりの精神で、入居者を尊重した言葉かけや対応をしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活は、入居者一人ひとりの希望に応じて過ごせるよう配慮されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理する職員の周りに、入居者が自然に集まり始め、自主的に楽しみながら、食器の準備や配膳を行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望があれば、午前・午後を問わず、入浴を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理、洗濯、草刈りなど、入居者は日々の生活の中から得意なことや役割を持ち、充実して過ごしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の買い物と一緒に出かけたり、ドライブ、外食などの工夫をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーを取り付け、入居者の出入りの際は、職員同士で声を掛け合っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員は、母体の病院で行われている定期的な避難訓練に参加している。外出などを通じて、地域住人との協力関係を作る努力をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家庭的な雰囲気調理されている。しかし、煮物の柔らかさ、食材の大きさなどの面で食べづらさが感じられた。		高齢者がより一層食べやすくなるような調理の工夫が求められる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に広々としており、採光を工夫した明るい居間で、居者は生き生きと落ち着いて過ごしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の設備は、生活に必要な最低限の物に留まっている。		入居者が居室で落ち着いてくつろげるよう、個別の好みに合わせた部屋作りが促される。